

和歌山県白浜町の定点における 2017 年のオカヤドカリ類 (甲殻類, 異尾類) の出現と放仔行動

Shin KUBOTA : Appearance and behaviour of larval release of terrestrial hermit crab (Crustacea, Anomura) at
a fixed point in Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan in 2017

久保田 信

はじめに

熱帯系のオカヤドカリ類の日本での自然分布の北限は和歌山県白浜町で、ここでは通常 5 - 9 月にかけて出現し、この期間中に放仔行動も行うことが知られている (久保田, 2013, 2015)。今回は和歌山県白浜町で継続して調査を実施している 1 定点でのオカヤドカリ類の出現と放仔行動について、2017 年の状況をマーキングにより 10 日間調査できたので、その結果を記録する。

材料と方法

2017 年 7 月 20 日から 7 月 31 日の期間中のできるだけ毎日、和歌山県白浜町番所崎の根元に位置する定点、即ち、不動明王付近 (洞の中とその周辺部で浜を除く区域) で、オカヤドカリ類の出現個体数を、マーキング法によりその出現状況を調べた。毎夜 20:15 - 22:40 の間に 1 回だけ LED ライトを照らして出現数を数え、発見後に全個体に油性のペイントの 5 色を塗り分けてマーキングした。オカヤドカリ類は国指定の天然記念物なので、この調査には県と町の許可 (指令文第 04100001 号) を得て行なった (平成 30 年 5 月 5 日まで許可)。なお、この調査は 8 月になっても継続する予定だったが、台風 5 号の接近による高波で中断を余儀なくされた。

結果と考察

定点には 7 月下旬の 10 日間で 25 個体のオカヤドカリ類が出現した。毎晩の新規個体の出現数とマーキング個体の再出現数 (日付, 新規個体出現数 + マーキング個体再出現数) は以下の通りであった: 7/20, 6+; 7/21, 4+3; 7/22, 2+2; 7/23,

2+0; 7/24, 1+0; 7/25, 1+0; 7/26, 4+0; 7/27, 2+0; 7/28, 1+0; 7/31, 2+0。なお、7 月 29 日と 30 日は高波と花火見物者で調査しなかった。

今回初めて出現した個体の半数以上が、数年前に着色した貝殻を未だに使用していた。海岸にはあまたの貝殻があるのに新しいものを使用していない理由は、海岸まで降りてゆく機会が少ないことによるのかもしれない。また、今回の再出現数は、観察回数こそ多くはできなくなったが、以前の調査とほぼ同様の結果で (久保田, 2015)、定点に存在する個体群のサイズが当時と同じままなのかもしれない。

一方、早朝 (5 - 6 時) に定点の波打ち際へ夜間に幼生を放出しに行った這い跡を数えた結果、わずか 2 - 4 個だったので、一晚に 1 - 2 個体しかこの行動をおこしていないことになる。これも前回の調査結果 (久保田, 2013) とほぼ同じで、再生産に乏しい結果のままであった。

引用文献

- 久保田 信. 2013: ムラサキオカヤドカリ (甲殻類, 異尾類) の和歌山県白浜町海岸での幼生放出記録. 日本生物地理学会会報, 68, 121-123.
- . 2015: 和歌山県白浜町の定点における 2014 年のオカヤドカリ類 (甲殻類, 異尾類) の出現 - 新参と古参の比較. 日本生物地理学会会報, 70, 245-247.

(〒 649-2211 西牟婁郡白浜町 459)
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所